

海外の畜産物の需給動向

牛肉

米 国

26年2月の牛肉輸出量は前年同月比19.2%減、26年予測は前年比8.2%減

26年3月の牛肉生産量は前年同月比2.7%減

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2026年3月の牛と畜頭数は234万頭（前年同月比5.9%減）とやや減少した。一方、同月の1頭当たり枝肉重量は409.1キログラム（同3.4%増）とやや増加した。この結果、同月の牛肉生産量は95万7000トン（同2.7%減）とわずかに減少した（図1）。と畜頭数の減少についてUSDAは、食肉業界大手のJBSが運営するコロラド州グリーリーの食肉処理施設において3月16日から4月7日にかけて大規模なストライキが発生し、肉用牛の出荷頭数に一部影響が見られたためとしている。

26年の牛肉生産量についてUSDAは、前月予測から9万トン引き下げて1169万8000トン（前年比0.8%減）と見込んでいる。

26年3月の牛肉卸売価格は前年を大幅に上回って推移

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2026年3月の肥育牛（ネブラスカの相対取引価格、チョイス級、去勢）の価格は、100ポンド当たり238.3米ドル（1キログラム当たり848円：1米ドル＝161.39円^{注1}、前年同月比13.5%高）と前年同月をかなり大きく上回った。また、同月の牛肉卸売価格（カットアウトバリュー^{注2}）は、同394.6米ドル（同1404円、同22.1%高）と前年同月を大幅に上回った（図2）。牛肉

図1 牛肉生産量の推移

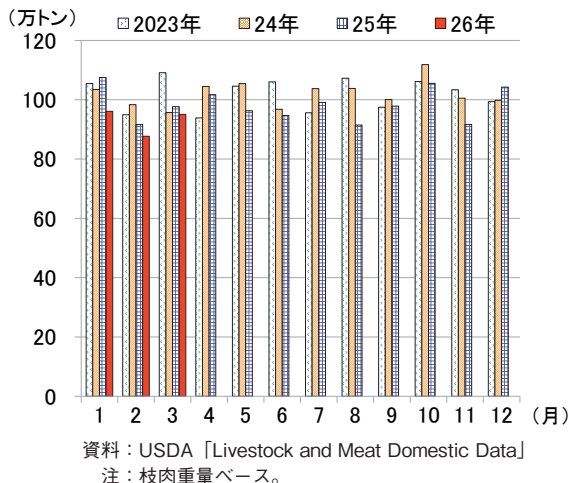
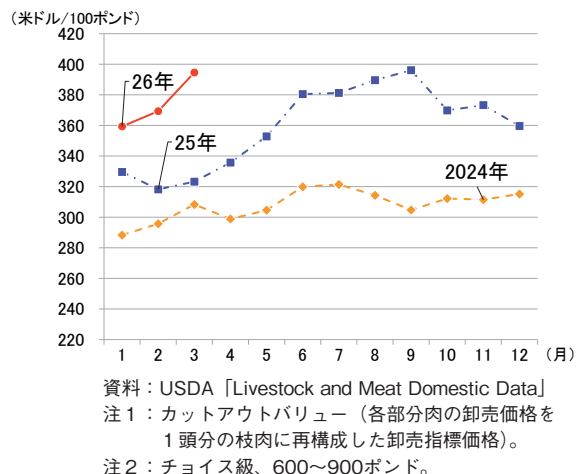


図2 牛肉卸売価格の推移



生産量が減少する中、国内の底堅い牛肉需要に支えられ、卸売価格は堅調に推移している。今後、バーベキューシーズンを迎える中で、卸売価格は引き続き高水準で推移するとみられている。

(注1) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年4月末TTS相場。
(注2) 各部分肉の卸売価格を1頭分の枝肉に再構築した卸売指標価格。

26年2月の牛肉輸出量が大幅減の一方、輸入量は大幅増

USDA/ERSによると、2026年2月の牛肉輸出量は8万3288トン（前年同月比19.2%減）と大幅に減少した（表）。中国向けについては、米国内の牛肉輸出施設の大部分で中国海関総署（GACC）による中国向け輸出に係る認可登録の更新手続きがまだに行われていないことを受け^(注3)、807トン（同94.8%減）と同国への牛肉輸出の大部分が停止している状況にあり、これが米国牛肉

輸出の大幅減に少なからず影響を与えている。なお、26年の牛肉輸出货量についてUSDAは、前月予測からさらに下方修正し、107万3000トン（前年比8.2%減）とかなりの程度減少すると予測している。

26年2月の牛肉輸入量は20万6688トン（同22.5%増）と大幅に増加した。特に赤身率の高い牛肉の需要を満たすため、主要輸入相手国ではブラジル（4万1880トン、同50.6%増）、豪州（3万8168トン、同19.3%増）、メキシコ（2万6693トン、同15.9%増）、ニュージーランド（2万3416トン、同11.0%増）が増加した他、アルゼンチン（9466トン、同97.6%増）、ニカラグア（9325トン、同2.1倍）およびパラグアイ（6257トン、同83.8%増）といった中南米地域からの輸入が大幅に増加した。

(注3) 5年ごとの認可登録の更新時期を迎えていた2025年3月、GACCにより豚肉・鶏肉の輸出施設の認可登録が更新された一方で、牛肉の輸出施設の一部については未更新の状況が続いている。

表 輸出先別牛肉輸出货量の推移

(単位：トン)

国名	2025年 2月	26年 2月	前年同月比 (増減率)	構成比	26年 (1～2月)	
					前年同期比 (増減率)	
韓国	22,522	18,817	▲16.5%	22.6%	42,052	▲8.7%
日本	23,739	18,374	▲22.6%	22.1%	38,672	▲16.4%
メキシコ	12,045	11,374	▲5.6%	13.7%	22,234	▲4.3%
カナダ	9,357	8,291	▲11.4%	10.0%	16,463	▲9.1%
台湾	5,462	5,087	▲6.9%	6.1%	11,570	19.0%
香港	2,532	6,310	149.2%	7.6%	11,374	109.9%
グアテマラ	1,091	1,537	40.9%	1.8%	2,883	28.9%
ドミニカ共和国	1,138	1,508	32.6%	1.8%	2,816	30.7%
フィリピン	1,585	1,383	▲12.7%	1.7%	2,045	▲31.0%
中国	15,555	807	▲94.8%	1.0%	1,849	▲94.6%
その他	8,111	9,799	20.8%	11.8%	19,966	17.5%
合計	103,136	83,288	▲19.2%	100.0%	171,923	▲17.2%

資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」

注：枝肉重量ベース。

(調査情報部)

牛肉生産量の減少は26年も継続の見込み

牛飼養頭数、9年連続で減少

欧州委員会によると、2025年12月時点のEUの牛飼養頭数（EU27カ国）は、7153万頭（前年比0.5%減）と9年連続で前年を

下回った（表1）。同委員会は、この減少傾向について、EUおよび各加盟国における将来の規制動向を巡り、生産者が先行きに不確実性を感じていることの表れであるとの認識を示している。

表1 主要生産国別牛飼養頭数の推移

（単位：万頭）

国名	2021年	22年	23年	24年	25年	前年比 (増減率)
フランス	1,733	1,699	1,681	1,648	1,623	▲1.5%
ドイツ	1,104	1,100	1,084	1,046	1,042	▲0.4%
スペイン	658	646	629	617	630	2.0%
アイルランド	665	655	653	631	628	▲0.4%
ポーランド	638	645	627	619	614	▲0.8%
イタリア	628	605	600	577	574	▲0.5%
オランダ	371	375	374	356	355	▲0.4%
その他	1,775	1,757	1,729	1,696	1,687	▲0.5%
合計	7,571	7,481	7,376	7,190	7,153	▲0.5%

資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：各年12月時点。

注2：乳用種を含む。

25年の牛肉生産量、と畜頭数減少を受け、前年比4.1%減

欧州委員会によると、2025年の牛肉生産量（EU27カ国）は631万トン（前年比4.1%減）とやや減少した（表2）。これは、同年のと畜頭数が2110万頭（同5.8%減）と減少したことによる影響が大きい。米国農務省海外農業局（USDA/FAS）によると、と畜頭数の減少は、1）牛群縮小に伴う子牛生産の減少により、と畜に供する牛が減少したこと、2）同年第1～3四半期（1～9月）にかけて高乳価が続いたことを背景に、搾乳牛

の保留が進んだことが主な要因とされている。さらに、エネルギー、労働力および土地などのコスト上昇によって生産者の所得が圧迫されていることのほか、環境規制やアニマルウェルフェアへの対応、家畜疾病や後継者不足なども影響しているという。また、同委員会は、相対的に低い飼料価格や高水準の牛肉価格が続く中、26年は年初から生乳取引価格が急落しているため、一時的にと畜頭数が増加する可能性に言及するものの、現状に根本的な変化が見込めないことから、牛群縮小とと畜頭数の減少傾向は継続し、牛肉生産量も減少すると予測している。

表2 主要生産国別牛肉生産量の推移

(単位：万トン)

国名	2021年	22年	23年	24年	25年	前年比 (増減率)
フランス	142	136	130	130	127	▲2.4%
ドイツ	107	99	100	101	94	▲6.6%
スペイン	72	73	70	72	70	▲2.1%
イタリア	75	75	62	66	66	▲0.5%
ポーランド	56	54	51	64	62	▲2.1%
アイルランド	59	62	60	60	54	▲9.7%
オランダ	43	42	44	43	39	▲9.1%
その他	126	123	122	123	118	▲3.7%
合計	680	664	638	658	631	▲4.1%

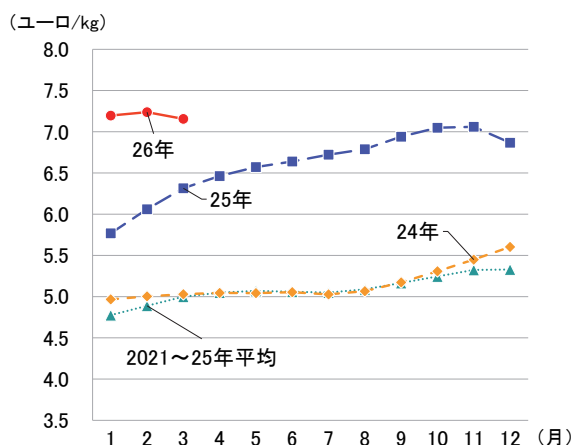
資料：欧州委員会「Eurostat」

注：枝肉重量ベース。

26年3月の枝肉卸売価格、前年同月比13.3%高

2026年3月の牛枝肉平均卸売価格^(注1)は、1キログラム当たり7.16ユーロ（1352円、1ユーロ：188.87円^(注2)、前年同月比13.3%高）となり、記録的な高値水準が続いている（図）。牛枝肉価格の高止まりは、前述の通り牛群の縮小が続き、構造的に牛肉供給が減少していることが背景にあるとみられる。

図 牛枝肉卸売価格の推移



資料：欧州委員会「Meat Market Observatory - Beef and Veal」

注：EU参考価格。

(注1) 若雄牛(A)、去勢牛(C)および若齢牛(Z)のうち枝肉の格付けが上(R)、枝肉の脂肪の付着度合いが平均的(5段階中3)なものの平均価格(A/C/Z-R3)。

(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年4月末TTS相場。

25年の牛肉輸出量は減少、輸入量は増加

2025年の牛肉輸出量は、41万9656トン（前年比12.4%減）とかなり大きく減少した（表3）。域内の牛肉価格が高値で推移したことによる国際市場での価格競争力の低下に加え、牛肉生産量の減少が影響したものである。品目別に見ると、冷蔵牛肉は同9.9%減、冷凍牛肉は同18.2%減と、いずれも前年を下回った。

一方、同年の牛肉輸入量は32万4245トン（同18.6%増）と大幅に増加した（表4）。品目別では、冷蔵牛肉が同8.8%増、冷凍牛肉が同37.8%増となった。域内需給の逼迫により牛肉価格が史上最高水準に達する中、主要輸入先である南米産の冷蔵・冷凍、英国産の冷凍を中心に輸入が拡大している。

表3 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：トン)

品目	輸出先	2021年	22年	23年	24年	25年	前年比 (増減率)
冷蔵	英国	150,227	154,085	159,678	149,948	139,752	▲6.8%
	トルコ	0	49	42,299	72,917	55,172	▲24.3%
	アルジェリア	2,155	—	395	29,049	28,550	▲1.7%
	ボスニア・ヘルツェゴビナ	32,672	30,641	36,249	33,220	25,695	▲22.7%
	スイス	18,940	17,424	12,543	15,157	18,667	23.2%
	その他	46,690	37,977	31,027	33,001	32,461	▲1.6%
	合計	250,684	240,176	282,191	333,292	300,297	▲9.9%
冷凍	英国	63,382	75,807	72,372	66,565	58,577	▲12.0%
	ガーナ	9,012	5,515	5,223	4,284	7,532	75.8%
	カナダ	11,906	9,808	7,588	7,598	5,394	▲29.0%
	スイス	2,559	1,131	1,055	1,988	4,720	137.4%
	フィリピン	23,331	19,381	10,660	12,169	4,469	▲63.3%
	その他	96,469	64,215	52,440	53,370	38,667	▲27.5%
	合計	206,659	175,857	149,338	145,974	119,359	▲18.2%
冷蔵・冷凍計		457,343	416,033	431,529	479,266	419,656	▲12.4%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは、冷蔵が0201、冷凍が0202。

表4 輸入先別牛肉輸入量の推移

(単位：トン)

品目	輸入先	2021年	22年	23年	24年	25年	前年比 (増減率)
冷蔵	英国	47,245	71,090	61,317	63,178	61,077	▲3.3%
	アルゼンチン	37,636	44,907	45,612	47,098	54,813	16.4%
	ウルグアイ	20,970	20,461	21,515	21,511	28,084	30.6%
	ブラジル	16,371	15,026	16,399	19,115	24,317	27.2%
	米国	11,428	13,347	14,176	12,656	12,321	▲2.6%
	その他	12,698	13,951	13,053	17,185	15,964	▲7.1%
	合計	146,348	178,782	172,072	180,743	196,576	8.8%
冷凍	ブラジル	37,123	40,312	41,068	39,784	59,065	48.5%
	英国	14,243	14,956	16,153	16,932	23,169	36.8%
	ウルグアイ	11,852	8,459	10,378	12,240	18,096	47.8%
	アルゼンチン	2,581	3,210	2,893	5,711	8,131	42.4%
	ナミビア	928	2,346	3,594	5,741	6,603	15.0%
	その他	4,902	7,602	6,027	12,255	12,605	2.9%
	合計	71,629	76,885	80,113	92,663	127,669	37.8%
冷蔵・冷凍計		217,977	255,667	252,185	273,406	324,245	18.6%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは、冷蔵が0201、冷凍が0202。

(調査情報部)

豪州

牛肉輸出量は過去最高水準、中国のセーフガード措置に見直しの可能性

26年4月の若齢牛価格、天候不順や燃料・肥料価格の高騰により下落傾向

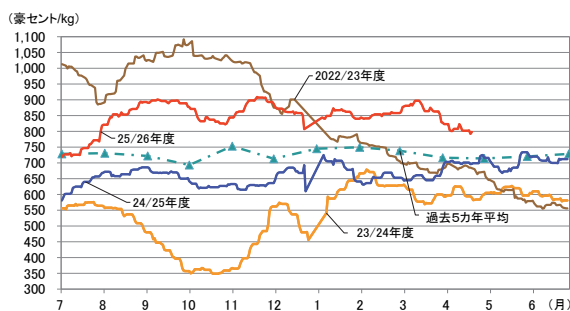
豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）によると、肉牛生体取引価格の指標となる東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、直近2026年4月22日時点で1キログラム当たり798豪セント（928円：1豪ドル＝116.28円^{（注1）}）と、3月中旬に記録した今年度最高水準から約1割下落した（図1）。

報道や現地アナリストの分析によると、1）乾燥気候が続いていることに加え、豪州気象局（BOM）が7月までにエルニーニョが発生する可能性を発表したこと、2）中東情勢の影響による燃料、肥料価格の高騰が生産コストを圧迫する懸念が強まっていることにより、牛の出荷を早める生産者が増えたこと

で需給が緩和し、価格の下落につながっているとされている（図2）。

（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年4月末TTS相場。

図1 EYCI価格の推移

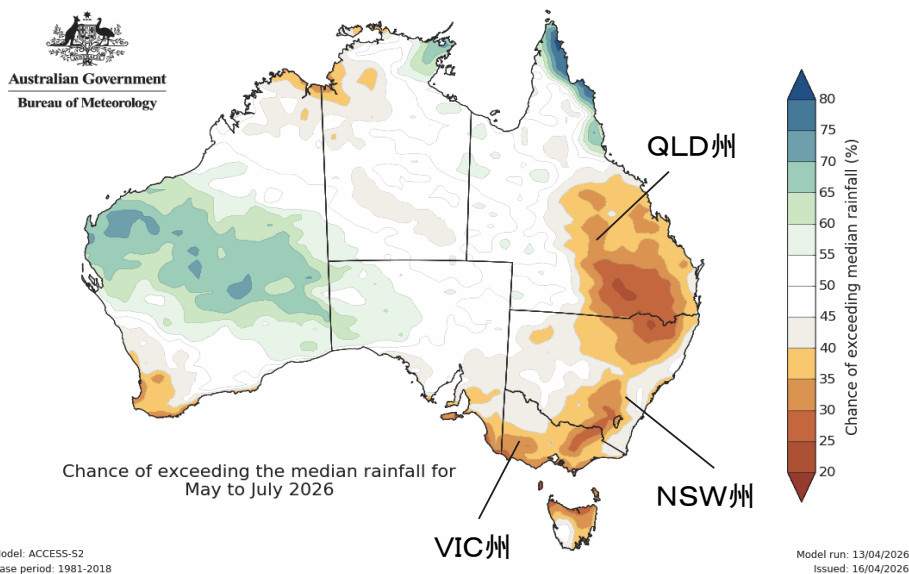


資料：MLA「National Livestock Reporting Service」

注1：年度は7月～翌6月。

注2：東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、東部3州（クィーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州）の主要家畜市場における若齢牛の加重平均取引価格で、家畜取引の指標となる価格（枝肉重量ベース）。肥育牛や経産牛価格とも相関関係にある。

図2 2026年5月から7月の豪州における降雨予想図

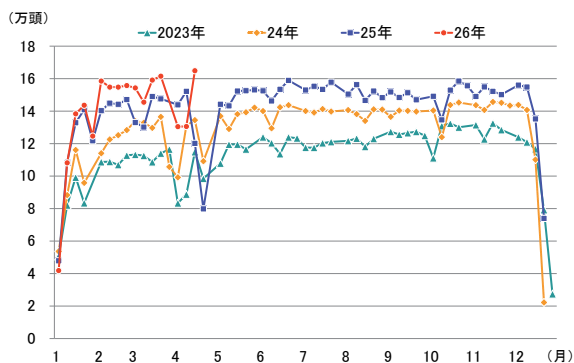


資料：BOMウェブサイトから引用

26年4月の成牛と畜頭数は高水準で推移、祝日の影響は限定的

2026年4月第3週の成牛と畜頭数は、16万4883頭（前年同期比37.2%増）と、大規模な干ばつがあった15年以来の高水準を記録した（図3）。4月上旬は祝日の影響で食肉処理・加工施設の稼働率が一時的に低下したものの、天候の影響などで牛の出荷が増えたことに伴い、と畜頭数は高水準で推移しており、多くの施設は予約が5月下旬まで埋まっていると報じられている。なお、例年5～6月は祝日の多い4月に比べてと畜頭数が増加する傾向にあり、足元の牛の供給が潤沢であることを踏まえると、5～6月の月間と畜頭数は過去最高を更新するとの予測が示されている。

図3 成牛と畜頭数の推移（週間報告）



資料：MLA「National Livestock Reporting Service」

注1：成牛のみ（子牛は含まない）。

注2：年末および3～4月ごろの減少は、祝日などの休暇に伴うと畜場休業によるもの。

26年3月の牛肉輸出量は堅調、中国向け輸出は新たな展開

豪州農林水産省（DAFF）によると、2026年3月の牛肉輸出量は14万9973トン（前年同月比33.4%増）と、月次データとしては過去2番目の数量を記録した（表）。

これを輸出先別に見ると、引き続き米国向けが4万2084トン（同30.3%増）、中国向けが3万2907トン（同62.4%増）と大幅な増加傾向で推移しており、特に中国向けは月間ベースで過去最高水準の輸出量となっている。中国商務部の告示によると、今年1月からの豪州産牛肉輸入量は、3月25日時点で同国に対するセーフガード枠（20万5000トン）^{（注2）}の50%に到達したとされており、現地報道では、5月中旬から6月上旬にはセーフガードが発動するとの予測が示されている。

こうした中、中国側は新たな動きを見せている。中国海関総署（GACC）は4月17日、新たに豪州の六つの冷蔵倉庫、二つの食肉処理・加工施設に対して、中国への輸出許可申請を承認したとウェブサイト上で伝えた。同時に、これまで冷凍牛肉のみ輸出が許可されていた既存の13の食肉処理・加工施設に対して、冷蔵牛肉の輸出許可を付与したと発表しており、豪州産牛肉の中国市場へのアクセスは大きく向上したとみられている。

このタイミングでのアクセス拡大には複数の見方があるが、DAFFが中国当局に対してセーフガードの対象品目から冷蔵牛肉を除外するよう求める書簡を送付し、担当大臣とのオンライン会談などを行っていることが、コリンズ農林水産大臣の発言から明らかとなっている。また、中国北西部で確認された口蹄疫SAT1型の影響により、同国内の牛肉供給に懸念が生じていると報じられており、一部の現地アナリストは、豪州とのセーフガード措置に何らかの見直しが行われる可能性があるとの予測している。

（注2）詳細については、海外情報「中国の新たなセーフガード措置に対する豪州の反応（豪州）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004262.html）をご参照ください。

表 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：トン)

国名	2025年 3月	26年 3月	26年 (1～3月)	
			前年同月比 (増減率)	前年同期比 (増減率)
米国	32,300	42,084	30.3%	105,783
中国	20,263	32,907	62.4%	76,561
日本	18,718	23,861	27.5%	58,450
韓国	16,324	25,543	56.5%	57,153
東南アジア	11,915	10,429	▲12.5%	25,206
中東	3,112	1,644	▲47.2%	7,120
E U	1,269	2,700	112.8%	6,430
その他	8,522	10,805	26.8%	28,497
輸出量合計	112,423	149,973	33.4%	365,200

資料：DAFF

注1：船積重量ベース。

注2：東南アジアは次の国の合計。フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア。

注3：中東は次の国の合計。イラン、イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、オマーン、イエメン、エジプト、パレスチナ自治区、アラブ首長国連邦（七つの首長国のうち四つ（アブダビ、ドバイ、フジャイラ、ラース・アル＝ハイマ））。

(調査情報部)

ブラジル

25年の牛肉生産量および輸出量は過去最大

25年の牛肉生産量は、前年に続き過去最大

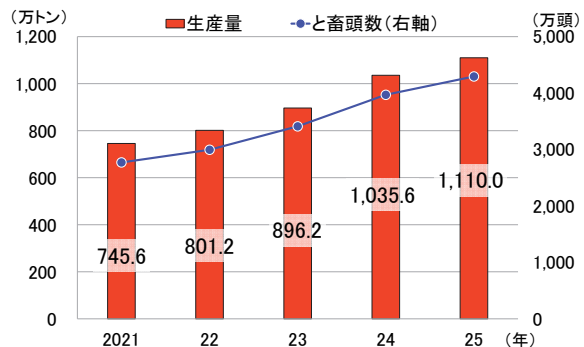
ブラジル地理統計院（IBGE）によると、2025年の牛と畜頭数は4293万5000頭（前年比8.2%増）、牛肉生産量は1110万トン（同7.2%増）といずれも前年をかなりの程度上回り、過去最大となった前年の記録を再び更新した（図1）。

25年の牛肉生産量について米国農務省（USDA）は、同年がブラジルのキャトルサイクルの減少期に当たることから前年並みにとどまると見込んでいたが、旺盛な国内外の需要があったこと、また、干ばつの影響で不受胎となった雌牛がと畜されたことから、当初の見込みを上回る結果となった。

26年については、USDAがキャトルサイ

クルによると畜頭数の減少を見込む中、サンパウロ大学農学部応用経済研究所（CEPEA）は、ブラジル大統領選挙、米国・カナダ・メキシコ共催FIFAワールドカップに関連する国内外の市場での特需を見込んでおり、今後の動向が注目される。

図1 牛肉生産量および牛と畜頭数



資料：IBGE

注1：牛肉生産量は枝肉重量ベース。

注2：2025年は速報値。

25年の牛肉輸出量は300万トン超と過去最大

ブラジル開発商工サービス省貿易局 (SECEX) によると、2025年の牛肉輸出量は309万294トン（前年比21.4%増）と前年を大幅に上回り、SECEXが統計を取り始めて以来初めて300万トンを超え、過去最大を記録した（表、図2）。この要因についてCEPEAは、1）世界的な牛肉供給の減少、2）同国の競争力のある安価なコスト、3）米ドルに対する

レアル安一が後押ししたためとしている。

輸出先別に見ると、輸出量全体の半分以上を占める中国向けは164万8327トン（同24.6%増）となったほか、米国、チリ、メキシコおよびロシアを含めた上位5カ国向けが、いずれも前年を大幅に上回る輸出量を記録した。特に、メキシコ向けは約2.6倍となった。USDAによると、メキシコが牛肉の供給がひっ迫する米国への輸出を継続する一方で、国内消費向けに安価なブラジル産の輸入を増やしたためとしている。

表 牛肉輸出の推移

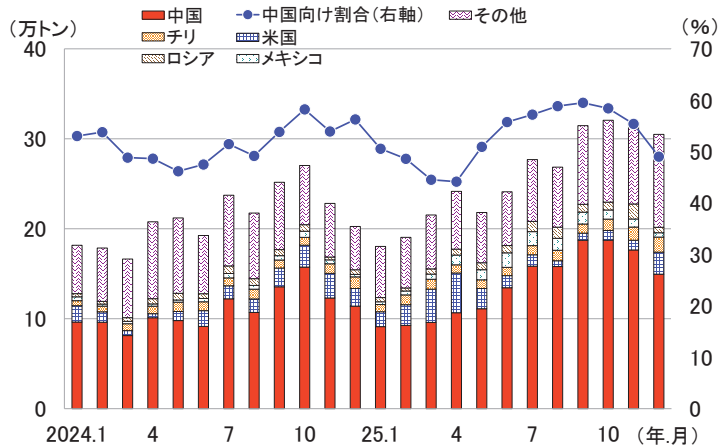
国名	2024年			25年			前年比（増減率）		
	輸出量（トン）	輸出額（千米ドル）	単価（米ドル/kg）	輸出量（トン）	輸出額（千米ドル）	単価（米ドル/kg）	輸出量	輸出額	単価
中国	1,322,663	5,979,945	4.52	1,648,327	8,842,601	5.36	24.6%	47.9%	18.7%
米国	189,248	944,784	4.99	229,582	1,209,132	5.27	21.3%	28.0%	5.5%
チリ	108,771	528,079	4.85	133,976	747,632	5.58	23.2%	41.6%	14.9%
メキシコ	45,806	214,322	4.68	117,485	644,058	5.48	156.5%	200.5%	17.2%
ロシア	67,211	260,891	3.88	100,145	472,955	4.72	49.0%	81.3%	21.7%
フィリピン	92,032	333,801	3.63	95,695	422,992	4.42	4.0%	26.7%	21.9%
エジプト	66,840	273,072	4.09	68,598	325,513	4.75	2.6%	19.2%	16.1%
サウジアラビア	54,775	251,269	4.59	62,704	326,833	5.21	14.5%	30.1%	13.6%
その他	598,413	2,872,120	4.80	633,782	3,616,746	5.71	5.9%	25.9%	18.9%
合計	2,545,759	11,658,283	4.58	3,090,294	16,608,462	5.37	21.4%	42.5%	17.4%

資料：SECEX

注1：HSコード0201、0202の合計。

注2：輸出量は製品重量ベース。

図2 牛肉輸出量および中国向け輸出割合



資料：SECEX

注1：HSコード0201、0202の合計。

注2：中国向け輸出量および割合はいずれも香港を含まない。

注3：輸出量は製品重量ベース。

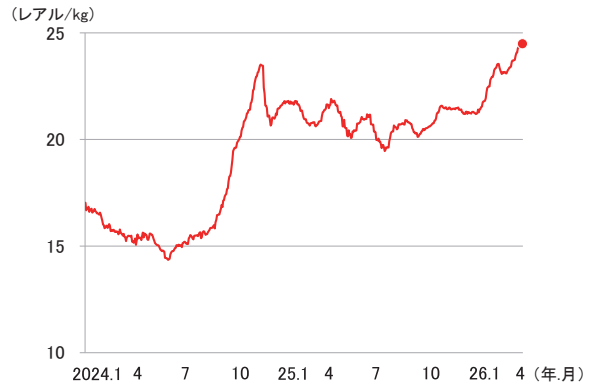
26年の肥育牛価格は上昇傾向で推移

CEPEAによると、2026年4月15日時点の肥育牛指標価格は1キログラム当たり24.49リアル（792円：1リアル=32.35円^(注)、前年同日比12.3%高）となった（図3）。

26年は、年初以降上昇傾向で推移しており、この要因としてCEPEAは、肥育牛の供給減と海外の旺盛な需要を挙げている。肥育牛の供給減については、降雨に恵まれ牧草地の状態が良好に保たれたことで、生産者が牛を牧草地で長く放牧し、と畜場への供給量が低水準にとどまっているとしている。

(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年4月末のTTS相場および現地参考為替相場（Selling）。

図3 肥育牛指標価格の推移



資料：CEPEA

注：図中の最新のマーカーは、2026年4月15日時点1kg当たり24.49リアルを示す。

（調査情報部）

豚 肉

米 国

26年2月の豚肉輸出量、日本など主要輸出国の強い引き合いにより1.6%増

26年3月の豚総飼養頭数、前年比0.4%増

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2026年3月1日時点の豚総飼養頭数は、7432万1000頭（前年比0.4%増）と前年をわずかに上回った（表1）。内訳を見ると、繁殖豚は589万2000頭（同1.5%減）とわずかに減少し、肥育豚は6842万9000頭（同0.6%増）とわずかに増加した。また、25年12月～26年2月期

の1カ月当たり平均産子数については、分娩母豚頭数が前年同期比2.8%減とわずかに減少したものの、1腹当たり産子数が11.9頭（前年同期比2.1%増）となったことから、1105万9000頭（同0.6%増）とわずかに増加した。

繁殖豚は、生産コストや収益性の制約により飼養頭数の回復が難しい中、1腹当たり産子数の増加により肥育豚頭数のわずかな増加につながった。

表 1 豚飼養頭数の推移

(単位：万頭)

区分	2024年	25年	26年	前年比 (増減率)
総飼養頭数 (3月1日時点)	7,469.1	7,399.7	7,432.1	0.4%
繁殖豚	601.6	598.0	589.2	▲1.5%
肥育豚	6,847.6	6,801.7	6,842.9	0.6%
50ポンド (23kg) 未満	2,136.9	2,081.1	2,085.1	0.2%
50～119ポンド (23～53kg)	1,911.3	1,877.2	1,879.8	0.1%
120～179ポンド (54～81kg)	1,575.4	1,586.5	1,590.2	0.2%
180ポンド (82kg) 以上	1,244.0	1,256.9	1,287.8	2.5%
分娩母豚頭数 (12～2月)	97.6	95.6	93.0	▲2.8%
産子数 (12～2月)	1,125.2	1,099.6	1,105.9	0.6%
1腹当たり産子数 (12～2月) (頭)	11.5	11.7	11.9	2.1%

資料：USDA「Hogs and Pigs」

注1：計数は、四捨五入のため、合計において一致しない場合がある。

注2：産子数には事故などで死亡した子豚を含まない。

26年3月の豚肉生産量、前年同月比 6.5%増

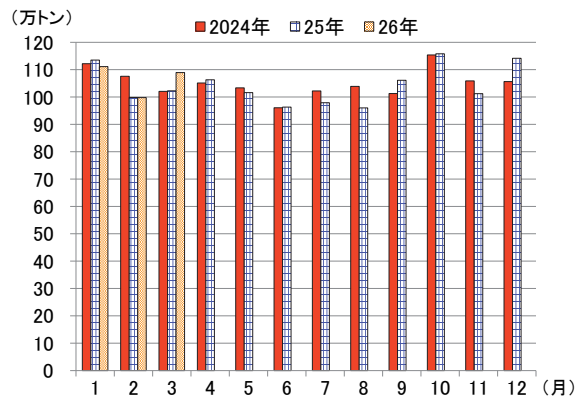
USDA/NASSによると、2026年3月の豚と畜頭数は、1101万3900頭（前年同月比5.8%増）と前年同月をやや上回った。平均枝肉重量もわずかに増加（同0.3%増）したため、同月の豚肉生産量は108万9257トン（同6.5%増）とかなりの程度増加した(図1)。

同年2月の肥育豚価格は、堅調な国内需要などを背景に100ポンド当たり64.75米ドル（1キログラム当たり230円：1米ドル＝161.39円^(注1)、同0.1%安）と前年同月並み、前月比では5.3%高となった（図2）。同月の豚肉卸売価格（カットアウトバリュー^(注2)）は、同95.91米ドル（同341円、同1.9%減）と前年同月をわずかに下回り、前月比では2.4%高となった（図3）。

(注1) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年4月末TTS相場。

(注2) 各部分肉の卸売価格を1頭分の枝肉に再構築した卸売指標価格。

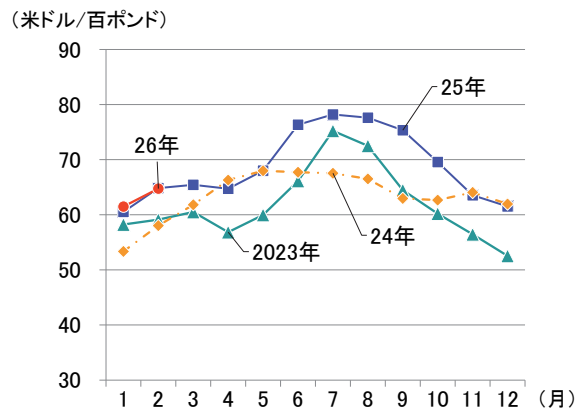
図 1 豚肉生産量の推移



資料：USDA「Livestock and Meat Domestic Data」

注：枝肉重量ベース。

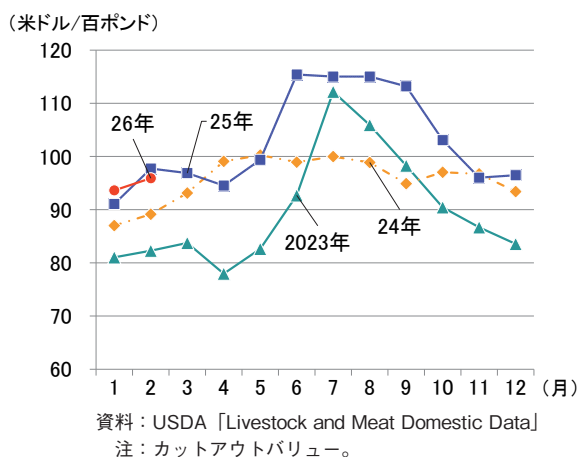
図 2 肥育豚価格の推移



資料：USDA「Livestock and Meat Domestic Data」

注：生産者平均価格。

図3 豚肉卸売価格の推移



26年2月の豚肉輸出量、前年同月比1.6%増

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2026年2月の豚肉輸出量は主要輸出先における需要が強まり、26万469トン

（前年同月比1.6%増）とわずかに増加した（表2）。最大の輸出先となるメキシコ向けは、10万441トン（同3.2%増）とやや、日本向けは3万9450トン（同22.1%増）と大幅に、韓国向けは2万6395トン（同4.5%増）とやや増加した。一方、中国向けは1万2065トン（同28.8%減）、コロンビア向けは1万1400トン（同18.1%減）、豪州向けは7276トン（同28.8%減）と、それぞれ大幅に減少した。中国向けは、米国産豚肉に対して追加関税が課されていることから、引き続き減少している。一方、輸出先上位のメキシコ、日本および韓国から強い引き合いがあったことから、全体の輸出量は増加した。26年1～2月の輸出量は、過去最大の輸出量となった24年同期をわずかに上回っており、順調な滑り出しとなった。

表2 輸出先別豚肉輸出量の推移

（単位：トン）

国名	2025年 2月	26年 2月	前年同月比 (増減率)	輸出割合	26年 (1～2月)	
					前年同期比 (増減率)	
メキシコ	97,324	100,441	3.2%	38.6%	213,457	3.5%
日本	32,297	39,450	22.1%	15.1%	77,075	22.0%
韓国	25,265	26,395	4.5%	10.1%	50,135	2.7%
カナダ	18,352	18,587	1.3%	7.1%	36,713	3.1%
中国	16,947	12,065	▲28.8%	4.6%	27,212	▲24.4%
コロンビア	13,918	11,400	▲18.1%	4.4%	24,621	▲0.5%
豪州	10,220	7,276	▲28.8%	2.8%	13,714	▲40.2%
香港	615	748	21.5%	0.3%	1,629	4.0%
その他	41,441	44,109	6.4%	16.9%	83,520	5.7%
合計	256,379	260,469	1.6%	100.0%	528,076	1.9%

資料：USDA 「Livestock and Meat International Trade Data」
注1：枝肉重量ベース。
注2：計数は、四捨五入のため、合計において一致しない場合がある。

（調査情報部）

カナダ

26年2月の生体豚輸出頭数、米国の需要増から前年同月比6.3%増

26年1月の豚総飼養頭数は前年比0.8%減、繁殖豚頭数は同0.4%増

カナダ統計局（Statistics Canada）によると、2026年1月1日時点の豚総飼養頭数は1388万頭（前年比0.8%減）とわずかに減少した（表1）。内訳を見ると、繁殖豚が122万頭（同0.4%増）とわずかに増加した一方、肥育豚は1265万頭（同0.9%減）とわずかに減少した。

また、カナダ農務・農産食品省（AAFC）によると、26年3月の豚と畜頭数は、222万頭（前年同月比1.3%増）とわずかに増加した（図1）。26年のカナダの豚肉生産量について米国農務省海外農務局（USDA/FAS）

は、繁殖豚の生産性向上や、食肉処理・加工施設の処理能力向上によりと畜頭数が増加することから、219万トン（同2.1%増）とわずかな増加を見込んでいる。

図1 豚と畜頭数の推移（月次）

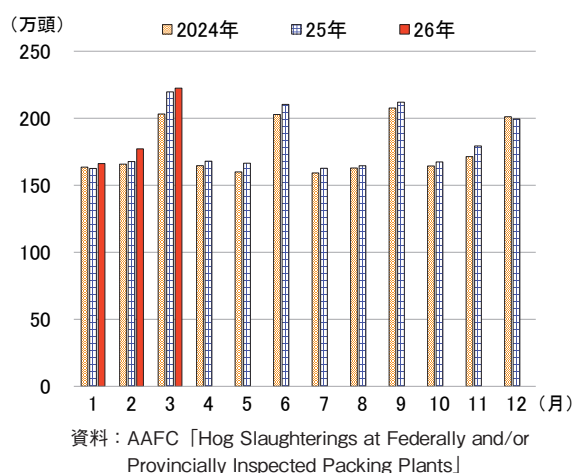


表1 豚飼養頭数の推移

（単位：万頭）

種類	2024年	25年	26年	前年比 （増減率）
繁殖豚	123	122	122	0.4%
肥育豚	1,276	1,276	1,265	▲0.9%
23kg未満	521	528	524	▲0.8%
23～53kg	246	241	243	0.6%
54～80kg	241	244	241	▲1.1%
81kg以上	268	263	257	▲2.1%
合計	1,399	1,398	1,388	▲0.8%

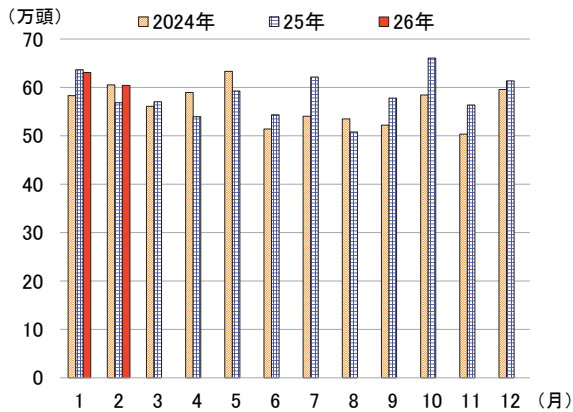
資料：Statistics Canada
注：各年1月1日現在。

26年2月の生体豚輸出頭数、前年同月比6.3%増

カナダ統計局によると、2026年2月の生体豚輸出頭数は60万頭（前年同月比6.3%増）とかなりの程度増加した（図2）。米国養豚

群において疾病の発生が継続していることから、カナダの生体豚需要が高まっているとみられる。26年のカナダの生体豚輸出頭数についてUSDAは、724万頭（前年比3.4%増）とやや増加すると見込んでいる。

図2 米国向け生体豚輸出頭数の推移



資料：Statistics Canada
注：HSコード0103。

26年2月の豚肉輸出量、前年同月比19.8%減

カナダ統計局によると、2026年2月の豚肉輸出量は8万4891トン（製品重量ベース、前年同月比19.8%減）と大幅に減少し、同年

1～2月の累計では16万5162トン（前年同期比10.9%減）とかなりの程度減少した（表2）。

2月の輸出量を輸出先別に見ると、多くの輸出先で前年同月を下回った。このうち、最大の輸出先である日本向けは2万5331トン（前年同月比29.6%減）となった。ただし、25年の単月平均（2万3972トン）と比較すると、5.7%増とやや上回った。フィリピン向けは、ブラジルからの輸入量が増加する中で、3954トン（同55.0%減）と大幅に減少した。一方、米国向けは堅調な需要から2万3164トン（同4.0%増）とやや増加した。

26年のカナダの豚肉輸出量についてUSDAは、13万8000トン（枝肉重量ベース、前年比3.7%増）とやや増加を見込んでいる。

表2 輸出先別豚肉輸出量の推移

（単位：トン）

国名	2025年 2月	26年 2月	前年同月比 (増減率)	構成比	26年 (1～2月)	
					前年同期比 (増減率)	
日本	35,976	25,331	▲29.6%	29.8%	48,684	▲13.8%
米国	22,263	23,164	4.0%	27.3%	45,988	0.5%
メキシコ	16,831	15,008	▲10.8%	17.7%	29,771	2.7%
韓国	5,609	5,310	▲5.3%	6.3%	10,328	0.7%
フィリピン	8,784	3,954	▲55.0%	4.7%	5,893	▲55.2%
中国	4,618	3,916	▲15.2%	4.6%	7,498	▲27.5%
台湾	4,250	3,146	▲26.0%	3.7%	6,237	▲23.9%
コロンビア	2,638	1,572	▲40.4%	1.9%	3,751	▲3.8%
その他	4,910	3,490	▲28.9%	4.1%	7,012	▲14.6%
合計	105,879	84,891	▲19.8%	100.0%	165,162	▲10.9%

資料：Statistics Canada
注1：HSコード0203。
注2：製品重量ベース。

（調査情報部）

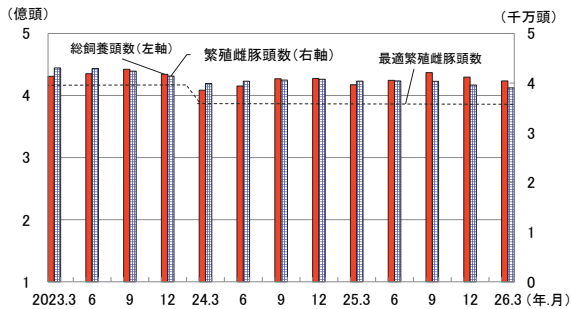
豚肉価格、子豚価格は前月比で再び下落

26年3月末の繁殖雌豚頭数、前年同期比3.3%減

中国農業農村部によると、2026年3月末時点の繁殖雌豚頭数は3904万頭（前年同期比3.3%減）と前年をやや下回った（図1）。これは、同部が最適な飼養水準とする3900万頭を0.1%上回っている。なお、同年3月3日、同部は、需要に見合った出荷調整を適切に行うため、主要な養豚企業に対し同水準を3650万頭に引き下げる予定であることを通知している（注1）。

（注1）詳しくは海外情報「中国政府、養豚目標数の下方修正を予告、中国で食料需要の減少が継続」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004329.html）をご参照ください。

図1 豚飼養頭数の推移



資料：中国国家统计局

注1：四半期ごとの公表値。

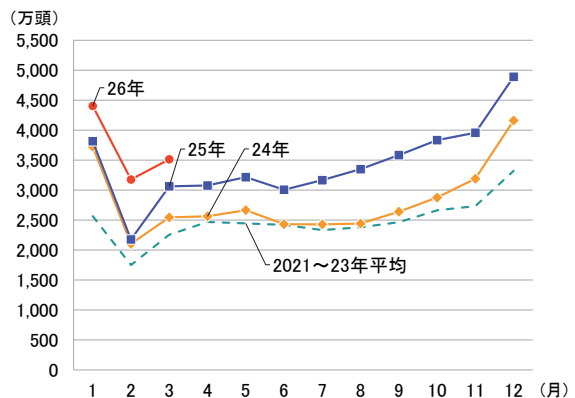
注2：2024年3月1日に中国農業農村部は「豚生産能力管理調整方策」を改訂し、最適繁殖雌豚頭数を4100万頭程度から3900万頭程度に引き下げた。

26年3月の豚と畜頭数、前年同月比14.7%増

2026年3月の豚と畜頭数は、3514万頭（前年同月比14.7%増）とかなり大きく増加した（図2）。これは前年を上回る水準であり、

26年の第1四半期の豚肉生産量も1669万トン（前年同期比4.2%増）と前年同期比でやや増加し、高水準を維持している。

図2 豚と畜頭数の推移



資料：中国農業農村部

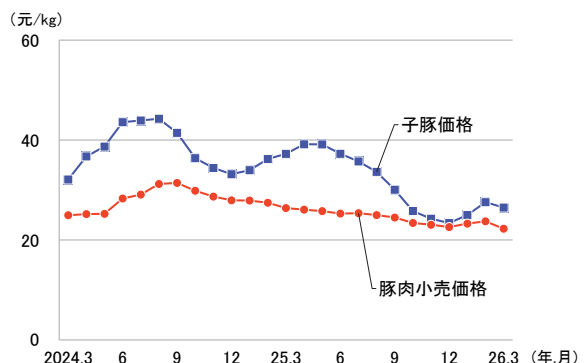
注：年間2万頭以上処理すると畜場でのと畜頭数（全体のと畜頭数の約3割）。

26年3月の豚肉小売価格、前月比6.2%安

2026年3月の豚肉小売価格は、1キログラム当たり22.3元（529円：1元＝23.73円（注2）、前月比6.2%安、前年同月比15.6%安）となった（図3）。

また、豚肉生産にも影響する子豚価格は、

図3 豚肉および子豚価格の推移



資料：中国農業農村部

同年1月に同26.5元（629円、前月比3.9%安、前年同月比28.9%安）となった。

今後の価格について、中国農業農村部が26年4月に公表した「農産物需給動向分析月報（2026年3月）」によると、肥育農家は今後の市場に悲観的な見方を強めており、子豚の導入意欲が低下している。消費面では、労働節（メーデー）の連休（5月1～5日）に向けた豚肉卸売業者や外食企業の旺盛な備蓄意欲が価格を下支えし、短期的には豚肉価格の下落幅は縮小するとしている。

26年1～3月の豚肉輸入量、前年同期比34.7%減

2026年1～3月の豚肉輸入量（製品重量ベース）は、17万7037トン（前年同期比34.7%減）と大幅に減少した（表）。この要因について、現地報道によると、前年から継続して国内の豚肉供給量が十分であることから価格が安値で推移し、輸入豚肉の価格優位性が弱まったためとされている。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年4月末TTS相場。

表 主要輸入先別豚肉輸入量の推移

（単位：トン）

国名	2024年	25年	25年 (1～3月)	26年 (1～3月)	前年同期比 (増減率)
スペイン	289,907	283,630	75,152	56,412	▲24.9%
ブラジル	236,989	153,564	54,647	24,274	▲55.6%
英国	61,928	71,921	16,416	16,150	▲1.6%
チリ	64,730	68,175	19,314	14,139	▲26.8%
カナダ	76,106	66,758	20,138	11,888	▲41.0%
米国	69,929	55,697	20,073	10,080	▲49.8%
オランダ	75,251	71,875	19,818	6,155	▲68.9%
その他	175,049	192,938	45,351	37,940	▲16.3%
合計	1,049,889	964,558	270,909	177,037	▲34.7%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは0203。

（調査情報部）

牛乳・乳製品

E U

26年2月の生乳出荷量は5.1%増と増加傾向が継続

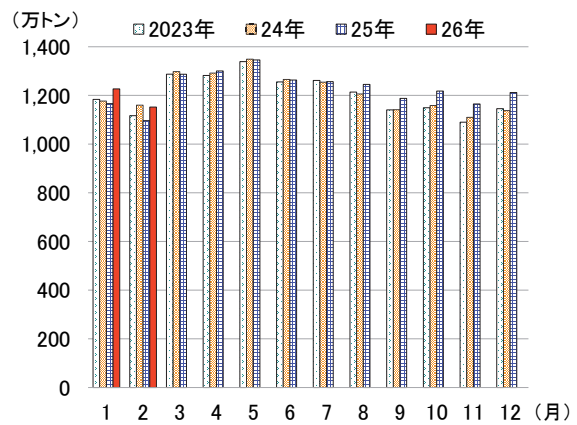
26年2月の生乳出荷量は前年同月比5.1%増

欧州委員会によると、2026年2月の生乳出荷量（EU27カ国）は前年同月比5.1%増の1152万トンと、前年同月をやや上回った（図1、表1）。主要生産国別に見ると、いずれも前年同月を上回り、増産基調が継続している。現地報道によると、1）25年上期に乳価が高水準で推移したことを背景に牛群の維持や後継牛の確保が進んだこと、2）牛群の更新により能力の高い経産牛（初産牛を含む）に置き換わったことで1頭当たり乳量が増加したことにより、生乳出荷量の増加が継続しているとみられている。

同委員会は、26年春季の短期的需給見通しで、同年の生乳出荷量について、第1四半期

（1～3月）に増加した後、下半期（7～12月）に減少に転じると見込んでいるものの、年間では堅調な域内需要に支えられることで、26年の生乳出荷量は前年比0.2%増の前年並みと予測している。

図1 生乳出荷量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

表1 主要生産国別生乳出荷量の推移

（単位：万トン）

国名	2025年 2月	26年 2月	前年同月比 (増減率)	26年 1～2月	
				前年同月比 (増減率)	前年同期比 (増減率)
ドイツ	246	263	6.9%	548	6.9%
フランス	187	198	6.0%	412	5.9%
オランダ	106	112	5.5%	234	5.7%
イタリア	101	110	9.1%	227	8.3%
ポーランド	106	108	2.5%	227	2.9%
その他	351	361	2.9%	731	3.0%
合計	1,096	1,152	5.1%	2,379	5.1%

資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

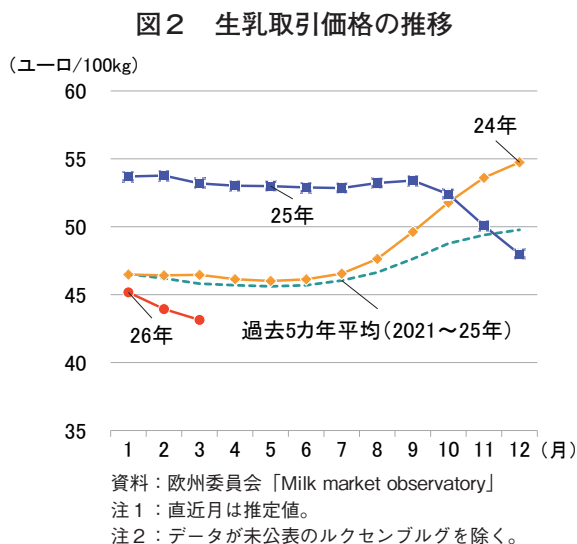
注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

注3：四捨五入により、各国の計と合計欄は一致しないことがある。

26年3月の生乳取引価格、前月割れが継続

欧州委員会によると、2026年3月の生乳取引価格（EU27カ国平均）は、100キログラム当たり43.14ユーロ（1キログラム当たり81円：1ユーロ＝188.87円^{（注）}、前年同月比18.9%安）となった（図2）。25年10月以降、生乳出荷量の増加が価格の下落圧力となり、6カ月連続で下落したが、26年3月の乳製品価格の一時的な回復を受け、同月の下落幅は前月に比べて縮小した。欧州委員会によると、乳製品価格は26年2月以降、安定または上昇する傾向にあり、これに伴い今後は生乳取引価格も落ち着く可能性があるとしている。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年4月末TTS相場。

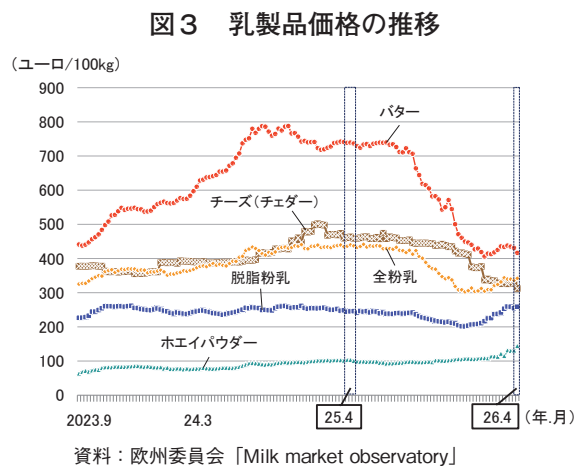


バターとチーズ価格は前年同期を下回るも、粉乳類は上昇の傾向

欧州委員会によると、2026年4月12日の週の乳製品価格（EU27カ国平均）は、バターが100キログラム当たり417ユーロ

（1キログラム当たり788円、前年同期比43.6%安）、全粉乳が同342ユーロ（同646円、同21.6%安）、チーズが同312ユーロ（同589円、同32.3%安）と、いずれも前年同期を大幅に下回った（図3）。一方、脱脂粉乳は同259ユーロ（同489円、同6.0%高）、ホエイパウダーは同145ユーロ（同274円、同39.7%高）と、前年同期を上回った。

現地報道によると、脱脂粉乳については、1）チーズやホエイの生産を優先している米国からの供給が減少したこと、2）ニュージーランドでは季節的に生乳生産が終了する時期に差し掛かっていること、3）中東の不安定な情勢により同地域からの需要が増加していることなどを背景とした欧州産に対する国際市場での需要の拡大により、価格が上昇している。また、ホエイについては、1）ホエイ成分が、医療用途など新たな用途拡大などを背景に、濃縮ホエイたんぱく質（WPC）や分離ホエイたんぱく質（WPI）に仕向けられていること、2）乾燥工程の処理能力が逼迫していることなどから価格が上昇している。



（調査情報部）

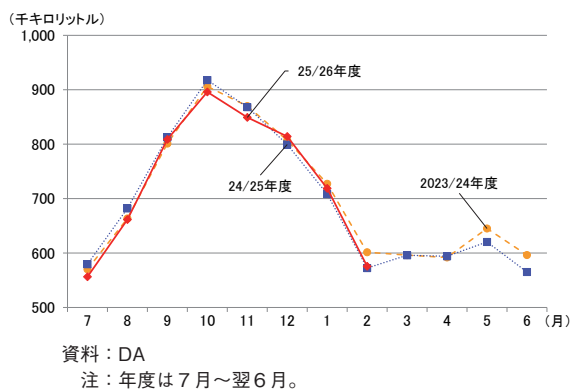
豪州

生乳生産量は3カ月連続で前年同月比増、輸出量は主要4品目で減少

26年2月の生乳生産量、前年同月比0.6%増

デイリー・オーストラリア（DA）が2026年4月に公表した「Milk Production Reports」によると、同年2月の生乳生産量は57万5641キロリットル（59万2910トン相当、前年同月比0.6%増）と3カ月連続で前年同月からわずかに増加した（図1）。

図1 月別生乳生産量の推移



一方、25/26年度（7月～翌6月）の生乳生産量は、11月までの5カ月間で前年を下回って推移していたことから、2月までの8カ月間の累計で見ると、588万299キロリットル（605万6708トン相当、前年同期比1.0%減）とわずかな減少となった。

25/26年度の生乳生産量について、豪州農林水産省（DAFF）と豪州農業資源経済科学局（ABARES）が26年3月に公表した「Agricultural Commodities Report」では、乳用経産牛頭数の減少により、815万キロリットル（前年度比2.0%減）とわずかな減少が見込まれている。乳用経産牛頭数減少の

要因としては、1）酪農家戸数の継続的な減少、2）豪州南部での乾燥気候による牧草の生育不良、3）牛肉価格高騰により乳用牛の淘汰が進んだことなどが挙げられる（注）。

（注）詳細については、『畜産の情報』2026年5月号「豪州の農畜産物需給見通し～2026年豪州農業需給観測会議から～」(https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_004235.html)をご参照ください。

26年2月の主要乳製品の輸出量はすべて減少

DAが2026年4月に公表した「Dairy Export Summary」によると、26年2月の主要乳製品4品目の輸出量はいずれも減少した（表、図2）。

脱脂粉乳は、輸出量全体に占める割合が高い輸出先として、インドネシア向けが大幅に増加したものの、中国など他のアジア向けが減少したことにより、前年同月比2.4%減とわずかに減少した。全粉乳は、輸出量全体に占める割合が高い中国向けは増加したものの、アラブ首長国連邦向けやベトナムなど東南アジア向けが大幅に減少したことにより、同15.2%減とかなり大きく減少した。バターおよびバターオイルは、マレーシア、中国向けが好調だったものの、メキシコ向け、韓国などアジア向けが大幅に減少したことにより、同32.3%減と大幅に減少した。また、チーズは、最大の輸出先である日本向けが大幅に減少したことにより、同8.1%減とかなりの程度減少した。

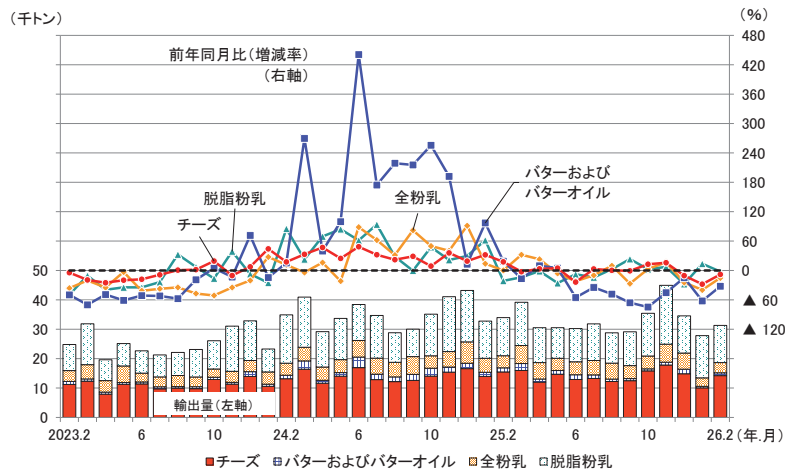
表 乳製品輸出量の推移

(単位：トン)

品目	2025年 2月	26年 2月	前年同月比 (増減率)	25/26年度 (7月～翌2月)	
				前年度比 (増減率)	
脱脂粉乳	12,970	12,656	▲2.4%	108,493	▲1.7%
全粉乳	4,104	3,481	▲15.2%	37,098	▲12.3%
バターおよびバターオイル	1,397	946	▲32.3%	7,411	▲49.6%
チーズ	15,476	14,224	▲8.1%	110,764	▲2.4%

資料：DA
注：製品重量ベース。

図2 乳製品輸出量および前年同月比（増減率）の推移



資料：DA
注：製品重量ベース。

(調査情報部)

N Z

生乳生産量11カ月連続で前年同月を上回る

26年3月の生乳生産量、前年同月比9.8%増

ニュージーランド乳業協会（DCANZ）によると、2026年3月の生乳生産量は193万5000トン（前年同月比9.8%増）と、11カ月連続で前年同月を上回った（図1）。また、2025/26年度（6月～翌5月）の3月までの生乳生産量も、1981万7000トン（前年比

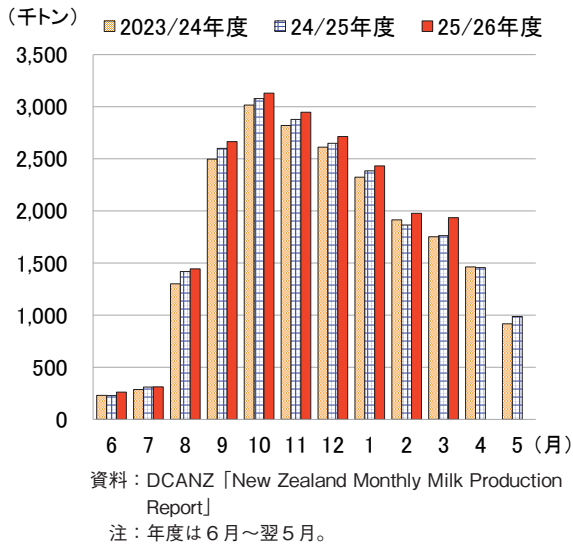
3.4%増）と前年度を上回って推移している。

この要因についてニュージーランド証券取引所（NZX）は、25年は北島、南島のいずれも干ばつに見舞われたのに対し、26年は好天に恵まれ牧草の生育環境が良好であり、一部の酪農家では経産牛1頭当たりの乳量が増加したことなどが寄与したためとしている。

今後の生乳生産の見通しについてNZXは、

良好な生産環境が持続すると見込んでいる。一方で、中東情勢の長期化により肥料や輸入飼料価格がさらに上昇すれば、経営環境が一変するのではないかと懸念している。

図1 生乳生産量の推移



26年3月の乳製品輸出量、チーズを除く主要3品目で増加

ニュージーランド統計局（Stats NZ）によると、2026年3月の乳製品輸出量は、チーズを除く主要3品目が前年同月を上回った（表、図2）。品目別に見ると、チーズは豪州向けが大幅に、中国向けはかなりの程度、いずれも減少したため、輸出量は前年同月を下回った。一方で、脱脂粉乳はインドネシア向け、全粉乳は中国向け、バターおよびバターオイルはインドネシア向けがそれぞれ大幅に増加したことにより、いずれも輸出量が前年同月を上回った。2025/26年度累計（25年6月～翌3月）では、主要4品目のうち全粉乳、バターおよびバターオイルが前年同期を上回った。

表 乳製品輸出量の推移

(単位：トン)

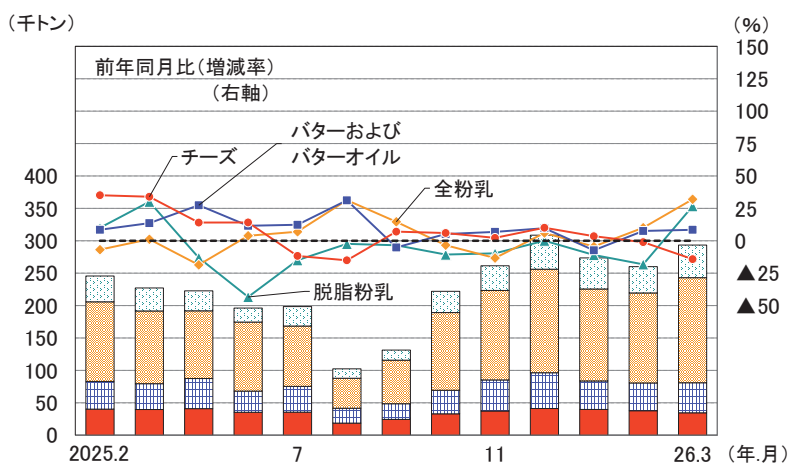
品目	2025年 3月	26年 3月	前年同月比 (増減率)	25/26年度 (6月～翌3月)	
				前年同期比 (増減率)	前年同期比 (増減率)
脱脂粉乳	39,752	50,342	26.6%	322,509	▲5.4%
全粉乳	122,849	162,140	32.0%	1,067,212	5.4%
バターおよびバターオイル	42,786	46,405	8.5%	359,457	6.3%
チーズ	40,184	34,482	▲14.2%	301,849	▲1.6%

資料：Stats NZ「Overseas merchandise trade datasets」

注1：HSコードは、脱脂粉乳が0402.10、全粉乳が0402.21と0402.29、バターおよびバターオイルが0405.10と0405.90、チーズが0406。

注2：製品重量ベース。

図2 乳製品輸出货量および前年同月比（増減率）の推移



資料：Stats NZ「Overseas merchandise trade datasets」
注：製品重量ベース。

26年4月21日のGDT平均取引価格、全粉乳、バターが前回を下回る

2026年4月21日開催のGDT^(注1)平均取引価格は、主要4品目のうち全粉乳、バターがいずれも前回開催時（26年4月7日）を下回った（図3）。取引全体では、全乳製品の平均取引価格は1トン当たり4143米ドル（66万8639円、1米ドル＝161.39円^(注2)、前回比2.0%安）とわずかに下落した。

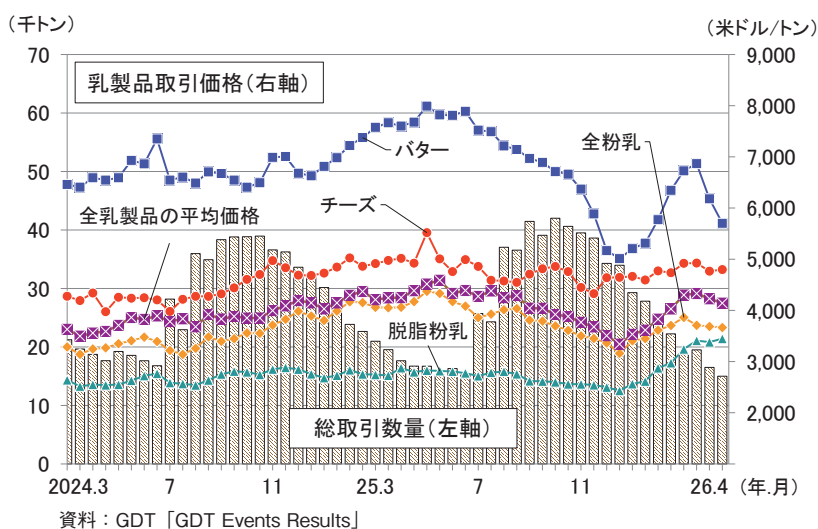
NZXは、NZや米国などの主要生産地域で

バターなどの乳製品生産が増加したことや、中東情勢や原油価格の上昇を背景に、物流確保に対する懸念から調達を先送りする動きがあったことなどから、市場価格が下落したとみている。

一方、脱脂粉乳については、東南アジアからの需要に支えられ、前回開催時の価格を上回ったとみている。

(注1) グローバルデリートレード。月2回開催される電子オークションで、当該価格は乳製品の国際価格の指標とされている。
(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年4月末TTS相場。

図3 GDTの乳製品取引価格と総取引数量の推移



資料：GDT「GDT Events Results」

(調査情報部)

飼料穀物

世界

25/26年度は生産量および輸入量の上方修正から期末在庫は上方修正

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2026年4月9日、2025/26年度の世界のトウモロコシ需給予測値を更新した（表）。

これによると、同年度の世界のトウモロコシ生産量は13億107万トン（前年度比5.7%増）と前月から363万トン上方修正された。主要生産国ではEUが下方修正されたものの、米国をはじめ他の主要生産国が軒並み据え置かれた他、インドや南アフリカなどの上方修正が影響した。

輸入量は、世界全体で1億9310万トン（同3.7%増）と前月から38万トン上方修正された。主要国ではブラジル、その他ではトルコ、

モロッコの上方修正が影響した。

消費量は、世界全体で13億255万トン（同4.2%増）と前月から204万トン上方修正された。主要国ではウクライナの上方修正が影響した。

輸出量は、世界全体で2億729万トン（同10.8%増）と前月から44万トン上方修正された。主要国ではいずれも前月から据え置かれたが、インドの増加などが反映された。

この結果、期末在庫は、生産量および輸入量の上方修正が消費量および輸出量の上方修正を上回ったことから、2億9481万トン（同0.5%減）と前月から206万トン上方修正された。

表 主要国のトウモロコシ需給見通し（2026年4月9日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

国名	2023/24年度	24/25年度 (推計値)	25/26年度			
			(3月予測)	(4月予測)	前年度比 (増減率)	
米国	期首在庫	34.55	44.79	39.40	39.40	▲12.0%
	生産量	389.67	378.27	432.34	432.34	14.3%
	輸入量	0.72	0.55	0.64	0.64	16.4%
	消費量	322.87	311.60	334.53	334.53	7.4%
	輸出量	57.28	72.60	83.82	83.82	15.5%
	期末在庫	44.79	39.40	54.02	54.02	37.1%
	ブラジル	期首在庫	9.88	8.33	11.36	11.52
生産量		119.00	136.00	132.00	132.00	▲2.9%
輸入量		1.72	1.76	1.60	1.70	▲3.4%
消費量		84.00	92.50	96.00	96.00	3.8%
輸出量		38.26	42.08	43.00	43.00	2.2%
期末在庫		8.33	11.52	5.96	6.22	▲46.0%
アルゼンチン		期首在庫	2.32	2.48	6.78	6.72
	生産量	51.60	50.00	52.00	52.00	4.0%
	輸入量	0.01	0.01	0.01	0.01	0.0%
	消費量	15.20	16.70	16.70	16.70	0.0%
	輸出量	36.26	29.07	37.00	37.00	27.3%
	期末在庫	2.48	6.72	5.09	5.02	▲25.3%
	ウクライナ	期首在庫	3.00	0.54	0.84	0.94
生産量		32.50	26.80	30.70	30.70	14.6%
輸入量		0.01	0.02	0.01	0.01	▲50.0%
消費量		5.48	6.40	6.60	6.70	4.7%
輸出量		29.49	20.02	22.00	22.00	9.9%
期末在庫		0.54	0.94	2.95	2.95	213.8%
EU		期首在庫	8.02	7.29	6.21	6.18
	生産量	61.95	59.59	56.95	56.80	▲4.7%
	輸入量	19.81	18.76	19.50	19.50	3.9%
	消費量	78.10	76.70	75.00	74.80	▲2.5%
	輸出量	4.39	2.76	1.80	1.80	▲34.8%
	期末在庫	7.29	6.18	5.86	5.88	▲4.9%
	中国	期首在庫	206.02	211.19	191.93	191.93
生産量		288.84	294.92	301.24	301.24	2.1%
輸入量		23.33	1.82	8.00	8.00	339.6%
消費量		307.00	316.00	321.00	321.00	1.6%
輸出量		0.00	0.00	0.02	0.02	—
期末在庫		211.19	191.93	180.15	180.15	▲6.1%
世界計		期首在庫	305.36	315.25	295.82	296.28
	生産量	1231.13	1231.38	1297.44	1301.07	5.7%
	輸入量	197.60	186.20	192.72	193.10	3.7%
	消費量	1221.24	1250.35	1300.51	1302.55	4.2%
	輸出量	192.65	187.15	206.85	207.29	10.8%
	期末在庫	315.25	296.28	292.75	294.81	▲0.5%

資料：USDA/WAOB [World Agricultural Supply and Demand Estimates]

注：各国の穀物年度 米国：9月～翌8月/ウクライナ、EU、中国：10月～翌9月/アルゼンチン、ブラジル：3月～翌2月。

(調査情報部)

大豆消費量の上方修正などから期末在庫は下方修正

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2026年4月9日、2025/26年度の世界の大豆需給予測値を更新した（表）。

これによると、同年度の世界の大豆生産量は4億2741万トン（前年度比0.2%減）と前月から23万トン上方修正された。このうち、最大の生産国であるブラジル、これに次ぐ米国などはいずれも前月から据え置かれたが、パラグアイや南アフリカの上方修正が反映された。

輸入量は、世界全体で1億8563万トン（同3.6%増）と前月から2万トン上方修正された。このうち、最大の輸入国である中国は1億1200万トン（同3.7%増）と前月から据え置かれた。

消費量（搾油仕向け）は、世界全体で3億6935万トン（同2.8%増）と前月から139万トン上方修正された。このうち、最大の消費国である中国は1億800万トン（同4.3%増）と前月から据え置かれたが、米国が前月から95万トン、ブラジルが同50万トン、それぞれ増加したことなどが反映された。

輸出量は、主要生産国のブラジルやパラグアイが前月から上方修正されたものの、米国

やウルグアイが前月から下方修正されたことで、世界全体では1億8717万トン（同1.6%増）と前月から据え置かれた。

期末在庫は、輸出量が前月から据え置かれる中で、消費量の上方修正が生産量および輸入量の上方修正を上回ったことなどから、世界全体で1億2479万トン（同0.0%減）と前月から52万トン下方修正された。

今回の予測では、米国の生産量が据え置かれ、同国内消費量（搾油仕向け）の上方修正が行われる中、USDAは米国の生産者販売価格を前月の1ブッシェル当たり10.20米ドル（1646円、1キログラム当たり65円^{（注1）}：1米ドル＝161.39円^{（注2）}）から同10.30米ドル（1662円、同65円）に引き上げている。

今回の予測値に関して中国の輸入量に目を向けると、同日付で中国農業農村部が公表した25/26年度の同国の大豆輸入量9580万トンとUSDAの予測値には、依然として1620万トンの乖離^{（かいり）}がある。国際相場にも影響を与える同国の輸入動向が引き続き注目される。

（注1）1ブッシェルを約25.401キログラムとして農畜産業振興機構が換算。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年4月末TTS相場。

表 主要国の大豆需給見通し（2026年4月9日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

国名	2023/24年度	24/25年度 (推計値)	25/26年度		
			(3月予測)	(4月予測)	前年度比 (増減率)
米国					
期首在庫	7.19	9.32	8.84	8.84	▲5.2%
生産量	113.27	119.05	115.99	115.99	▲2.6%
輸入量	0.57	0.79	0.68	0.68	▲13.9%
消費量	62.20	66.55	70.08	71.03	6.7%
輸出量	46.27	51.23	42.86	41.91	▲18.2%
期末在庫	9.32	8.84	9.52	9.52	7.7%
ブラジル					
期首在庫	36.82	29.76	36.81	37.69	26.6%
生産量	154.50	172.50	180.00	180.00	4.3%
輸入量	0.87	0.73	0.50	0.90	23.3%
消費量	54.41	58.16	61.00	61.50	5.7%
輸出量	104.17	103.14	114.00	115.00	11.5%
期末在庫	29.76	37.69	37.91	37.69	0.0%
アルゼンチン					
期首在庫	17.00	24.05	23.57	23.57	▲2.0%
生産量	48.21	51.11	48.00	48.00	▲6.1%
輸入量	7.79	6.32	7.50	7.30	15.5%
消費量	36.58	43.24	41.00	41.00	▲5.2%
輸出量	5.11	7.87	8.25	8.25	4.8%
期末在庫	24.05	23.57	22.92	22.72	▲3.6%
中国					
期首在庫	32.34	43.31	44.49	44.49	2.7%
生産量	20.84	20.65	20.90	20.90	1.2%
輸入量	112.00	108.00	112.00	112.00	3.7%
消費量	99.00	103.50	108.00	108.00	4.3%
輸出量	0.07	0.07	0.10	0.10	42.9%
期末在庫	43.31	44.49	44.39	44.39	▲0.2%
世界計					
期首在庫	101.82	115.13	123.84	124.81	8.4%
生産量	396.40	428.15	427.18	427.41	▲0.2%
輸入量	178.54	179.19	185.61	185.63	3.6%
消費量	331.25	359.25	367.96	369.35	2.8%
輸出量	177.76	184.21	187.17	187.17	1.6%
期末在庫	115.13	124.81	125.31	124.79	▲0.0%

資料：USDA/WAOB [World Agricultural Supply and Demand Estimates]

注1：各国の穀物年度 米国：9月～翌8月/ブラジル、アルゼンチン、中国：10月～翌9月。

注2：消費量は搾油仕向量である。

（調査情報部）

米 国

米国は生産量の増加などにより期末在庫は大幅増加

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）は2026年4月9日、2025/26年度（9月～翌8月）の米国のトウモロコシ需給見通しを更新した（表）。この中で、生産者平均販売価格が上方修正されたことを除き、すべての数値は前月から据え置かれた。

米国内生産量は、170億2100万ブッシェル（4億3235万トン^{（注1）}、前年度比14.3%増）と前年度をかなり大きく上回ると見込まれている。

米国内消費量は131億7000万ブッシェル（3億3453万トン、同7.4%増）と前年度をかなりの程度上回ると見込まれている。

輸出量は、33億ブッシェル（8382万トン、同15.5%増）と前年度をかなり大きく上回ると見込まれている。

この結果、期末在庫は、21億2700万ブッシェル（5403万トン、同37.1%増）と前年度を大幅に上回ると見込まれている。

また、期末在庫率（総消費量に対する期末在庫量）は、12.9%（同2.6ポイント増）と、前年度を上回ると見込まれている。

米国内生産量が前年度をかなり大きく上回ると見込まれる中、生産者平均販売価格は、1ブッシェル当たり4.15米ドル（670円。1キログラム当たり26円：1米ドル＝

表 米国のトウモロコシ需給見通し（2026年4月9日米国農務省公表）

区分	－単位－	2023/24年度	24/25年度 （推計値）	25/26年度			
				（3月予測）	（4月予測）	参考（換算値）	前年度比 （増減率）
作付面積	（百万エーカー）	94.6	90.9	98.8	98.8	39.98（百万ヘクタール）	8.7%
収穫面積	（百万エーカー）	86.5	83.0	91.3	91.3	36.95（百万ヘクタール）	10.0%
単収	（ブッシェル/エーカー）	177.3	179.3	186.5	186.5	11.71（トン/ヘクタール）	4.0%
期首在庫	（百万ブッシェル）	1,360	1,763	1,551	1,551	39.40（百万トン）	▲12.0%
生産量	（百万ブッシェル）	15,341	14,892	17,021	17,021	432.35（百万トン）	14.3%
輸入量	（百万ブッシェル）	28	22	25	25	0.64（百万トン）	13.6%
総供給量	（百万ブッシェル）	16,729	16,677	18,597	18,597	472.38（百万トン）	11.5%
国内消費量	（百万ブッシェル）	12,711	12,267	13,170	13,170	334.53（百万トン）	7.4%
飼料等向け	（百万ブッシェル）	5,831	5,454	6,200	6,200	157.49（百万トン）	13.7%
食品・種子・その他工業向け	（百万ブッシェル）	6,880	6,813	6,970	6,970	177.04（百万トン）	2.3%
うちエタノール向け	（百万ブッシェル）	5,489	5,436	5,600	5,600	142.25（百万トン）	3.0%
輸出量	（百万ブッシェル）	2,255	2,858	3,300	3,300	83.82（百万トン）	15.5%
総消費量	（百万ブッシェル）	14,966	15,126	16,470	16,470	418.35（百万トン）	8.9%
期末在庫	（百万ブッシェル）	1,763	1,551	2,127	2,127	54.03（百万トン）	37.1%
期末在庫率	（%）	11.8	10.3	12.9	12.9		2.6ポイント増
生産者平均販売価格	（米ドル/ブッシェル）	4.55	4.24	4.10	4.15	26.4（円/kg）	▲2.1%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：年度は各年9月～翌8月。

注2：1ブッシェルは約25.401キログラム、1エーカーは約0.4047ヘクタール。

注3：換算値は端数処理の関係で「表 主要国のトウモロコシの需給見通し」の米国の値と一致しない場合がある。

161.39円^(注2)、同2.1%安)と前年度からわずかに下落すると見込まれている。

こうした中で、米国農務省国立統計局(USDA/NASS)が同年3月31日付けで公表した大豆やトウモロコシなどの農作物作付見通し報告書によると、2026/27年度の作付面積について、大豆は8470万エーカー(3428万ヘクタール^(注3)、同4.3%増)と見込まれる一方、トウモロコシは9534万エーカー(3858万ヘクタール、同3.5%減)と見込まれている。現地業界誌によると、米国内

の大豆由来バイオディーゼル需要が堅調であることなどが要因として挙げられている。

(注1) 1ブッシェルを約25.401キログラムとして農畜産業振興機構が換算。

(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年4月末TTS相場。

(注3) 1エーカーを約0.4047ヘクタールとして農畜産業振興機構が換算。

(調査情報部)

中国

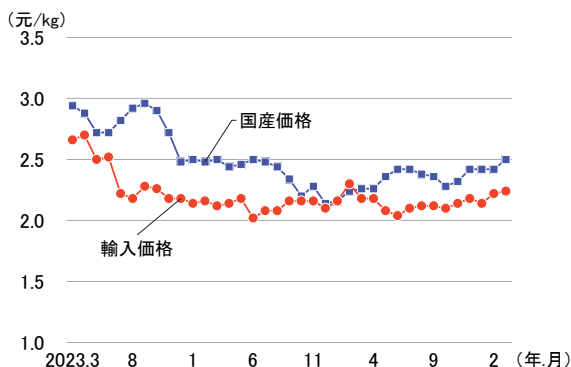
トウモロコシおよび大豆の価格動向

26年3月の国産トウモロコシ価格、やや上昇

中国農業農村部は2026年4月23日、「農産物需給動向分析月報(2026年3月)」を公表した。この中で、同年3月の国産トウモロコシ価格は前月からやや上昇した(図1)。生産者の販売進捗率は8割を超え、市場への供給は穀物業者の手持ち在庫が主体となり、

全体的には供給は減少傾向にあることが報告されている。また、市場には強気の見方が広がっていることで、生産者の売り惜しみ傾向が見られ、一部の穀物加工企業では買い付け価格を引き上げる動きがあったことも、価格の上昇を後押ししている。今後については、養豚企業の収益性が悪化しているため、飼料製造企業は在庫確保に慎重になり、国産トウモロコシ価格は変動して推移すると見込まれている。

図1 トウモロコシ価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成

注1：国産価格は、中国東北部から広東省黄埔港までの運賃込み2級黄トウモロコシ価格。

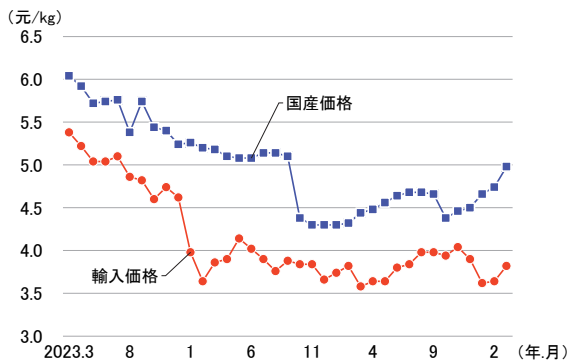
注2：輸入価格は、米国メキシコ湾積出し2級黄トウモロコシの広東省黄埔港引渡し価格(関税割当数量内：課税後)。

輸入トウモロコシ価格を見ると、養豚主産地の中国南部向け飼料原料集積地となる広東省黄埔港到着価格は、26年3月がかんどんこうほ1キログラム当たり2.24元(53円：1元=23.73円^(注)、前月比0.9%高)とわずかに上昇した。また、同月の国産トウモロコシ価格(東北部産の同港到着価格)は同2.50元(59円、前月比3.3%)となり、国産価格の上昇幅が輸入価格をやや上回ったことから、輸入と国産の価格差は拡大した。

26年3月の国産大豆価格、前月からやや上昇

2026年3月の国産大豆価格は、前月からやや上昇した（図2）。同月の大豆需給を見ると、穀物加工企業による在庫確保の動きが継続し同価格を下支えしている中で、高品質な国産大豆在庫のひっ迫や先物価格の上昇から市場には強気の見方が広がっており、国産大豆価格を押し上げたとされている。今後は、市場が閑散期となるため、価格は安定して推移すると見込まれている。

図2 大豆価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成

注1：国産価格は、山東省入荷価格。

注2：輸入価格は、山東省青島港引渡し価格（課税後）。

各地の価格動向を見ると、主産地である黒竜江省の食用向け国産大豆平均取引価格は、26年3月が1キログラム当たり4.58元（109円、前年同月比16.8%高）と前年同月を大幅に上回った。また、大豆の国内指標価格の一つとなる山東省の国産大豆価格も、同4.98元（118円、同12.2%高）とかなり大きく上昇した。同月の輸入大豆価格も同3.82元（91円、前月比6.7%高）とかなりの程度上昇したが、国産価格の上昇幅が輸入価格の上昇幅を上回ったことにより、輸入と国産の価格差は拡大した。

国際相場に影響する中国の大豆輸入量は、前年水準を下回っている。26年（1～2月）の輸入量は、1255万トン（前年同期比7.8%減）とかなりの程度減少した。また、輸入額は、同3.1%減の60億9700万米ドル（9840億円：1米ドル＝161.39円）と報告されている。主な輸入先は、ブラジル（総輸入量の52.3%）、アルゼンチン（同26.0%）、米国（同11.9%）である。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2026年4月末TTS相場。

（調査情報部）